バイタルシム

最新のテクノロジーを応用したバイタルサインシミュレータ

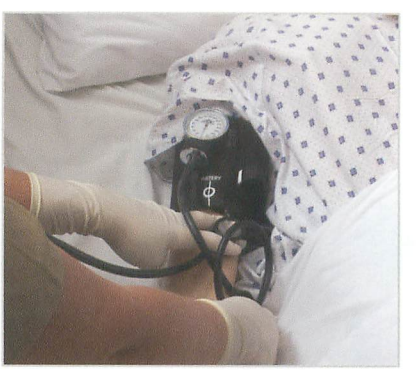
バイタルシム™は、救命処置トレーニングおよび臨床技能・看護ケアトレーニング用に開発された
各種のマネキンへ接続することでECG、心音、肺音、腹部音、血圧、脈拍を再現し、
よりリアル且つ高度なシミュレーションを行う事ができます。更に付属のソフトウェアを使用することによって、
学習目的に応じたシナリオを自由に作成したり、ログ（処置記録）をPCに保存したりすることが可能となり、
インストラクターによる指導の効率化を図ることができます。

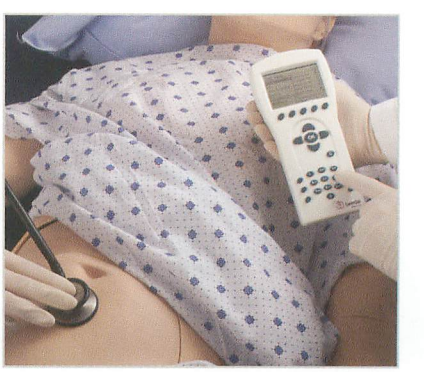
ALSシミュレータ
58～59ページをご覧ください。

メガコード キッド
33ページをご覧ください。

ナーシング ケリー
32ページをご覧ください。

ナーシング アン
30～31ページをご覧ください。





ベースユニット
寸　法：幅（W）22.0×長さ（D）22.0×高さ（H）7.2cm
重　量：約1.3kg
電　源：1.5V（単2）アルカリ電池6本

リモコン
寸　法：幅（W）8.3×長さ（D）18.5×高さ（H）3.7cm
重　量：約0.3kg（電池含む）
電　源：1.5V（単3）アルカリ電池4本

製品の利点：

・効果的なシナリオトレーニングおよびスキルトレーニングのために、様々なバイタルサインを総合的に再現します。
・各種の患者シミュレータやマネキンに共通で使用でき、様々な患者を想定したトレーニングに同じ操作方法で対応できます。
・独自にシナリオを作成・使用することで、トレーニングを標準化できます。
・シナリオを実行中であってもリモコンによるリアルタイム操作が可能で、トレーニングの進行に柔軟性を持たせることが可能です。

バイタルシムの機能

循環関連（※ナーシング ケリーは対応していません。
また、ナーシング アンはECGモニタリングのみ対応しています。）

・1,000種類以上のECG調律を再現可能です。
・次に実行する調律を予め選択できます。
・ECGモニタリング、除細動、経皮ペーシングに対応しています。

サウンド

・心　音：設定されたECGと心拍数（20～200回／分）に同期して発生します。
　-ノーマル、大動脈弁狭窄音、オースティン・フリント雑音、摩擦音、僧帽弁逸脱、収縮期雑音、拡張期雑音、Open snap 70ms MS（開弁期弾撥音（僧帽弁狭窄））
・肺　音：呼吸数（～60回／分）と同期して発生します。両肺同時または片肺別々での設定が選択可能です。
　-ノーマル、Crackles（細かい）、Crackles（粗い）、Pleural Rub（胸膜摩擦音）、Pneumonia（肺炎）、Rhonchi（いびき音）、Stridor（喘鳴）、Wheeze（笛音）
・腹部音：正常時および異常時をそれぞれ再現可能です。
　-ノーマル、亢進、腹鳴、減弱、胎児心音（ナーシング アンのみ）
・音　声：予め内蔵された音声の再現に加え、外部マイクを経由して直接発声することも可能です（マイクは市販品をご利用下さい）。
　-咳、苦悶、嘔吐、息切れ、叫び声、「はい」、「いいえ」

カタログ番号	商品名
200-10005	バイタルシム

構成品：
バイタルシム本体（ベースユニット／リモコン）、バイタルシムソフトウェアCD-ROM（シナリオ作成／ログダウンロード用）、マネキン接続ケーブル、リモコン接続ケーブル、USBケーブル、ACアダプタ、ソフトケース、取扱説明書

血圧／脈拍（※メガコード キッドは対応していません）

・聴診法と触診法にて非観血血圧測定を実施できます。
・ECGと同期したコロトコフ音が再現されます。ボリュームの調整（0～9）も可能です。
・収縮期血圧と拡張期血圧は2mmHg単位で、0～300mmHgの範囲で設定できます。
・Gap（聴診間隙）のON／OFFを設定できます。
・血圧誤差は±2mmHgと正確です。精度を維持するキャリブレーション機能も搭載しています。
・設定された心拍数に同期した上腕動脈と橈骨動脈の拍動をシミュレートします。更にALSシミュレータでは左右の頸動脈も拍動します。
・脈拍は触診した時点で発生します。
・設定された血圧値に応じて拍動の強さが自動変化します。

ログ（処置記録）とシナリオ機能

・バイタルシムはUSBケーブルでWindows®PCに接続可能です。また、標準付属のソフトウェアとして「シナリオエディター」と「ログ&シナリオコントロール」を利用できます。
・シナリオエディター
　-トレーニング目的に応じた任意のシナリオを作成・保存できます。
・ログ&シナリオコントロール
　-PC上で作成・保存されたシナリオを、バイタルシムのベースユニットへアップロードすることができます。ベースユニットには最大10件のシナリオを保存しておくことが可能です。
　-バイタルシムのベースユニットへ自動保存されるログ（最大25件）データを、トレーニング後の評価用としてPCへダウンロードすることができます。